

研究・調査報告書

報告書番号	担当
410	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Metabolic syndrome and risk of developing chronic kidney disease in Japanese adults. 日本人成人におけるメタボリックシンドロームと慢性腎臓病の進行の危険性について	
執筆者	
Tozawa M, Iseki C, Tokashiki K, Chinen S, Kohagura K, Kinjo K, Takishita S, Iseki K.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Hypertens Res. 2007 Oct;30(10):937-43.	
キーワード	
肥満、中性脂肪、HDL コレステロール、血圧、空腹時血糖	
要 旨	
<p>目的： メタボリックシンドロームは循環器疾患の進展の危険因子である。しかし、アジア人を対象とした、慢性腎臓病 (CKD) の危険因子としてのメタボリックシンドロームの研究はほとんど見られない。</p> <p>方法： 我々は、1997年のベースライン調査時にはCKDも糖尿病も認めなかった6,371人を対象として、2002年に日本の沖縄県でCKDの発症状況を調査した。CKDは計量計で尿タンパク陽性(≧1+)または概算GFR低値(<60mL/min/1.73m²)と定義した。メタボリックシンドロームはATPIIIを修正した基準、すなわちウエスト周囲径の代わりにBMI(≧25kg/m²)を使用して定義した。CKDの進行におけるメタボリックシンドロームの効果を解析するためにロジスティック解析を行った。</p> <p>結果： 5年間の経過観察の間に、369人(5.7%)がCKDに進行した。ベースライン時の年齢、性、喫煙、飲酒習慣を調整したところ、メタボリックシンドロームを有する対象者のCKD進展の相対危険度は1.86(95%信頼区間:1.43-2.41、p<0.0001)であった。メタボリックシンドロームの危険因子を持たない群を比較すると、調整後相対危険度(95%信頼区間)は、メタボリックシンドロームの危険因子を1つ持つ群で1.49(1.10-2.01)、2つ持つ群で1.89(1.38-2.59)、3つ以上持つ群で2.65(1.19-3.68)であった。</p> <p>結論： メタボリックシンドロームは日本人集団においてもCKD進展の有意な危険因子であった。メタボリックシンドロームの改善と治療はCKDを予防する方法として強調されるべきである。</p>	